

はじめに

2009年4月 福島県福島市で青空保育たけの子創立
目的：子どもの教育と福祉を野外活動により達成する

2011年3月 東日本大震災による原発事故発災

2011年10月 山形県米沢市に通うことで
野外保育継続



2019年10月 「タケダいのちとくらし再生プログラム」
組織基盤強化事業において
上野谷加代子氏からコミュニティワークについて学ぶ

研究の背景

1. 研究動機

(1) NPOの組織基盤強化とは

1) 組織基盤強化の要素とは (パブリックリソース財団)

①リーダーシップ力

②適応力

③マネジメント力

④技術力

2) たけの子に必要な組織基盤強化とは

上野谷加代子氏のコミュニティワーク講座

研究の背景

1. 研究動機

(2) コミュニティワーク

1) コミュニティワークとの出会いから

2019年に聞いたコミュニティワークを研究するのが、
2020年度NPO経営者ゼミに参加した目的

2) NPOの存在意義（日本政策金融公庫総合研究所 藤井）

第1：新たな起業家の苗床

第2：新しい公共

第3：市民の社会参加の促進

→地域課題の解決（コミュニティワーク）

第4：雇用の創出

3) コミュニティワークは資金調達力につながるのか

研究の背景

1. 研究動機

(3) 福島県のNPO数は何を表すのか

	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2
認証	52	76	90	77	66	48	51	37	26	29	9
解散	6	6	8	19	11	13	22	15	25	20	20
法人 数	583	652	734	790	843	877	902	924	923	929	917

- ・平成23年度（震災の年）～平成26年度までのNPO認証数が多い
- ・平成25年度からは解散も増えている
- ・総数は平成28年度から横ばいである

研究の背景

1. 研究動機

(3) 福島県のNPO数は何を表すのか

- 平成23年度（震災の年）～平成26年度までのNPO認証数が多い
- 平成25年度からは解散も増えている
- 総数は平成28年度から横ばいである



創立当初に立てた目標と共に、新たな社会課題に取り組んでいるNPOが生き残っている
新しいコミュニティワークをしている団体は継続し、していない団体は存在意義を失っていく

研究の背景

2. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

わたし達の団体は、資金源がないという弱みから、地域とつながり問題解決（コミュニティワーク）をしていくことで支援者を得、助成金も得てきた

NPOの存在意義のひとつである、市民の社会参加の促進（コミュニティワーク）が組織基盤強化のひとつであるということを確認する

研究の背景

2. 研究の目的と方法

(2) 研究の方法と研究対象

1) アンケート調査

福島県の27のNPO団体を対象（回収率29.7%）

※活発に活動をしている団体をゼミ担当者から推薦してもらった

2) 聞き取り調査

アンケート回答者の中から4件の聞き取りを行った。

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(1) アンケートの内容

1. NPO法人の20の活動分野のうち、いずれを社会課題として取り組んでいるのか
2. 創立時とは違った社会課題に取り組んでいるのか。
3. 社会課題について代表、理事、スタッフ、地域住民はどの様に動いているのか。代表的な事業3つまでについて、1～5段階の評価で回答
4. ステークホルダーと夢を語り合っているか
5. ヒヤリングに協力いただけるか
6. アンケート結果について後日報告が欲しいか

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

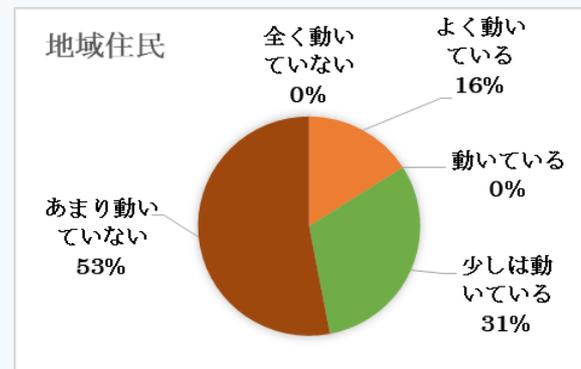
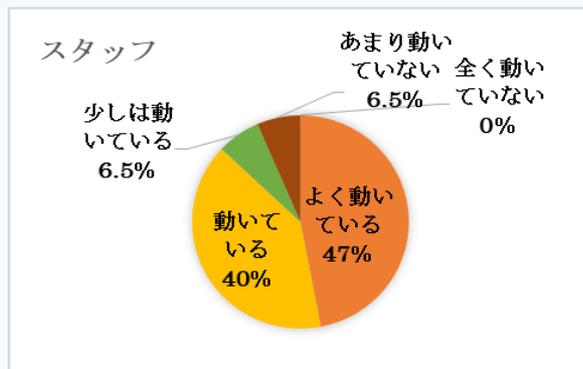
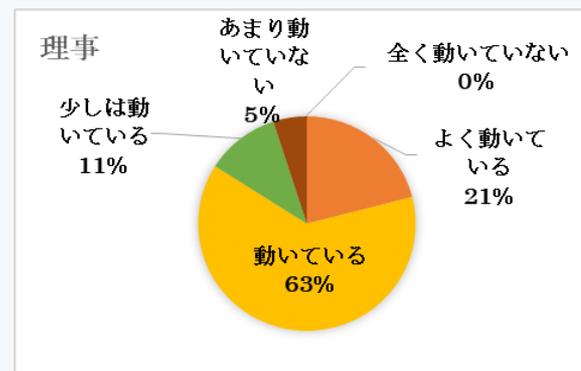
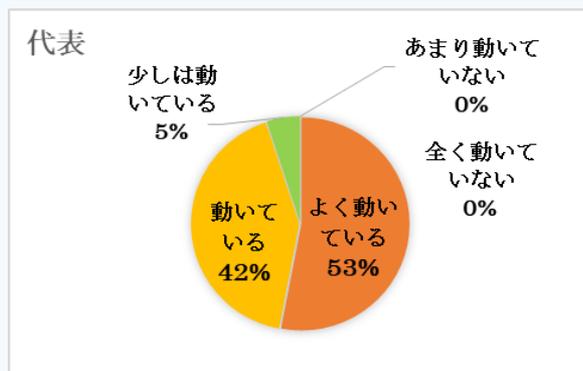
(2) アンケートの結果 (回答者の88%が代表理事)

1. 回答の団体すべてがそれぞれの活動分野を社会課題として取り組んでいる
2. 創立時とは違う新たな社会課題に取り組んでいる団体は回答団体の半数。残りの団体も新しい課題ではないが、利用者のニーズに合わせた新たな取り組みを行っていた

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(2) アンケートの結果 (回答者の88%が代表理事)

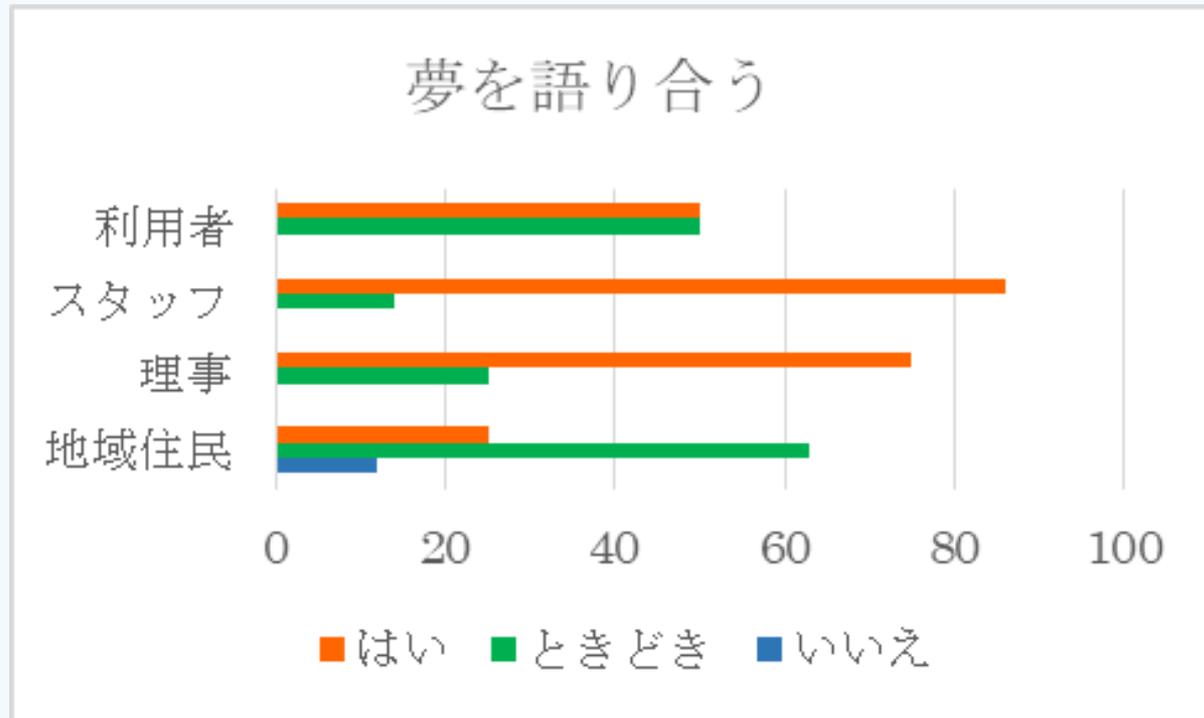
3. 誰が動いているのか



コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(2) アンケートの結果 (回答者の88%が代表理事)

4. 誰と夢を語り合っているのか



コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(3) ヒヤリングの内容

新たな社会課題に取り組んでいないという団体（事例1・2）と取り組んでいるという団体（事例3・4）からの聞き取り

1) 事例1

- ・新たな社会課題に取り組んでいない理由を聞いたところ、利用者にニーズに合わせて新しい取り組みをしていた

- ・地域住民とも時々夢を語り合っていた

- ・お金にならない仕事（コミュニティワーク）は手間がかかるが、ネットワークをもっていると自分もラクになる。ただ働きが大事

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(3) ヒヤリングの内容

新たな社会課題に取り組んでいないという団体（事例1・2）と取り組んでいるという団体（事例3・4）からの聞き取り

2) 事例2

- ・震災前と後とではそれに合わせて作業内容が外から中へと変化
- ・これからの10年を考えようという語り合いをスタッフと利用者で行った
- ・週2回の飲み会（コロナ禍前）で地域を巻き込む
- ・地域では新参者だが、田舎ならではのわだかまりがない分強みになる

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(3) ヒヤリングの内容

新たな社会課題に取り組んでいないという団体（事例1・2）と取り組んでいるという団体（事例3・4）からの聞き取り

3) 事例3

- ・社会状況の変化に応じて社会課題も変化
- ・代表、理事、スタッフ、地域住民すべてが社会課題を解決しようとしてよく動いている
- ・コミュニティワークによって直接資金は増えないが、あらゆる地域住民とつながることで、他の災害時においてもその支援の輪が広がり、さらなる社会課題の解決につながっている

そのことが顧客満足度につながり、福祉商材の購買につながっている

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを調査する

(3) ヒヤリングの内容

新たな社会課題に取り組んでいないという団体（事例1・2）と取り組んでいるという団体（事例3・4）からの聞き取り

4) 事例4

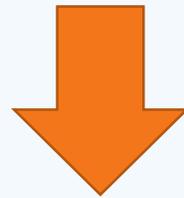
- ・原発事故による営農支援団体のため、試行錯誤を繰り返している
- ・本当の地域のニーズはアンケート調査だけではわからず、個別面談により、あったらいいだけでなく、どうしても必要な支援を知ること
- ・よそ者というレッテルは「本気度」によって跳ね返してきた「覚悟」をみて地域住民とのつながりが深まっている

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを考察する

(1) アンケート調査から

アンケートの目的

新たな地域課題に取り組んでいる団体は、代表だけでなく、スタッフ、利用者、地域住民とつながり、それぞれのステークホルダーも課題解決に動いているということを実証する

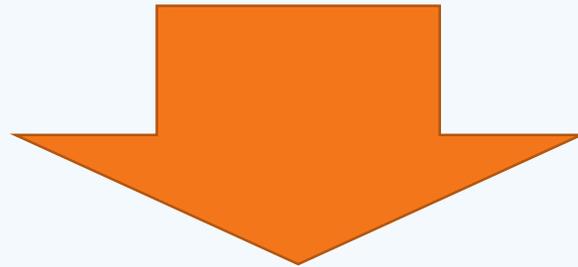


立場によって温度差はあるものの、それぞれのステークホルダーが課題解決にむけて動いていることがアンケートから読み取れた

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを考察する

(2) ヒヤリングから

それぞれの団体は、各ステークホルダーとの関わりは違っているが、リーダーシップや適応力に優れている



組織基盤強化の柱

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを考察する

(3) まとめ

組織基盤強化は弱点克服よりも強みを伸ばすことが大事



利他の精神



愛

「半径3メートルに入ってきた人にできることをする」

コミュニティワークはNPOの組織基盤を強化するのかを考察する

(3) まとめ

コミュニティワークは直接利益を生み出しはしないが、人と人の繋がりによって、組織基盤が強化される